

職場の努力に報いない経営姿勢とあらゆる組織破壊に抗し、共にたたかう仲間を増やすため「転換」する年にしよう！

主催者あいさつ(要旨) 中央執行委員長 佐藤 英樹

●職場の努力に報いない経営姿勢を突破しよう！

経営姿勢を突破しよう！
経団連の「経営者報告」では、春闘を労使間で「闘争」ではなく「協創」することが謳われています。私たちは職場からのたたかいをしつつ、JR総連春闘スローガンに基づき、ペーパー12000円満額獲得に向け奮闘しようではありませんか！

2024JR総連春闘は、職場の努力に報いない経営姿勢を突破するためにたたかいます。社会との違いを明確にして「安全・健康・ゆとり」ある職場をめざします。

バスやステーションサービスの仲間も切実な声を集約しています。「新賃金と夏季手当を同時議論する会社の狙いは何か」「21春闘での定昇カット」など、職場議論や学習・情宣活動の強化を通じて労働者意識・組合員意識・仲間意識を高め、統一要求・統一闘争でたたかいます。

●自ら転換しよう！

社会や会社が転換する中、私たちJR東労組を強化・拡大するために、「自ら転換する年」にする必要があります。一括してセンター化や、成績率の見直し、ジョブ型採用の導入、ライン管理の全方面導入などに賛成されるのか、「融合と連携」「経営への参画意識」によって「組合員の意識を革新し、社員化させること」です。「たたかい」を想起させる労働組合より

も、反論しない社会の育成が進められています。常に経営陣は労働者の分断を図るため、不当労働行為は止みません。一部管理者から社員の希望を利用した脱退策動が行われています。「組合のバックには日本を転覆させる組織があった」と組合に入っている会社はそれのように見る」という陰謀論や、「きれいになって早く戻ってほしい」「希望を早く叶えるなら早く判断しろ」の組合差別発言を許しません。

私は大宮運転区分会の不当処分・不当転換を聞き、事実隠蔽や管理者の自己保身、命令と服従の職場づくりが狙いと感じました。大宮地本「怒りの決起集会」で組合員は「管理者が『わかった』と言ったことを『生きた』と力強く述べられています。発言では戒告の事由を「業務指不被されたにも関わらず、管理者の承認を得ずに無断で帰宅したことは、社員として著しく不都合な行為」としていますが、管理者から「戻ってほしい」か、代わりの人を探そうということになってしまつたら、嫌な思いをさせてあげない」と言われています。懲戒処分は昇給カットや手当減額、昇進試験を受けられないなど組合員の将来に関わります。営業統括センターへの異動は「重処分であり、不当処分」の異動を許さず断固たたかいます。この問題は懲罰的日勤教育などで現れた経営姿勢と同じです。仲間を拡大しない限り、経営姿勢は変わらない」と決意を打ち固め、組織強化・拡大を推

●自己保身とたたかい、安全を再確立しよう！

東北新幹線が発生した停車事故では、感電や火傷の二次災害まで発生しました。命が奪われかねない重大事故であり、現実把握と原因究明を進めていきます。本質をふまえ、想定外も想像して安全を先取り。「安全計画2028」の発表直後であり、JR東日本は本営に「安全が経営のトッププライオリティになっているのか」の議論を深めます。

今年2月21日は「山手貨物線作業員触車死亡事故」から25年です。原因究明委員会や安全セミナー、職場議論等を通じて職場現実や本音を語り合い、安全問題は「日々の安全に対する自らの姿勢と自己保身のたたかい」であることを教訓として「責任追及から原因究明へ」の安全哲学を再確立しましょう。

今も戦争で命が奪われている中、この機に乗じた岸田政権の沖縄・南西諸島を中心とした軍事大国化に向けた動きや、原発活用の動きを見逃してはなりません。平和研修や19日帰国、9条連ニエースの購読拡大、能登半島地震カバンなどを通じて「抵抗とヒューマンズ」を基底に「平和と安心して暮らす社会の実現」に向け奮闘すること、そして、あらゆる組織破壊を許さずJR総連と共に団結することを訴え、主催者あいさついたします。

主な発言

●24春闘・夏季手当について

値上げラッシュで実質賃金はマイナス、衣食住を切り詰めている。23春闘も要求額にはほぼ達せ、「稼げない」が優先され、安全や組合員・家族の幸せは二の次だ。21春闘では昇給係数が4から2にされ、生涯賃金に大きく影響していることを忘れてはならない▼ステーションサービス協議会は、昨年の夏季手当で再申し入れをするなど交渉力を高め、冬は過去最高の妥結額に。サポートコール制御では34駅を4人で案内し、外国人旅行者の対応に追われるなど過去最高の働きだが賃金が低すぎる。等級毎の上限額撤廃を求めたなか▼バス関東東本部は23春闘の衝撃的なペーパー5000円に加え、夏季・年末手当も0.2ヶ月ずつ上がったのみで「会社に期待できない」との声が噴出、離職者も出ている。55歳減額制度も時代錯誤だ。一方で新規加入した仲間には「未加入者のように何もせず」に回答をみるのではなく、「意見を言いたい」と決意。24春闘は笑顔で満額回答を実現したい▼バス東北本部は21春闘の定昇カットや手当減少により、社員数が400名を切るどころまで離職。それでも突発的な列車代行やインバンド輸送を担ってきた。人材確保のため年末手当は「2.45ヶ月」要求を貫き、「残って良かった」と思える回答を強く求めた、バス東北本部緊急提言を實踐し、協力しつつモンを言う、バス本部頼みではなく職場でたたかう姿勢が満額回答を引き出し、職場が明るくなった▼24春闘メッセージ行動では「異動先が希望とは異なる

●安全問題について

「怒鳴られたり苦情を言われたり」とトレスがすご」「等の声が寄せられている。対話を通じて意識を高めてもらうことが大切だ。
新幹線統括部長の掲げが出たが、あの文書では何かあっても列車を止められない▼新幹線の感電事故を受け、「こんな危険な現場では仕事できない」と感じた▼事故が繰り返される背景は、モニタリング装置導入で監視が減ったが、管理エリアが広がり、庭先意識が低下したことも影響しているではないか▼違和感があっても列車を止められないのは「定時で帰りたい」「これくらい大丈夫なやつ」と考えを自己保身し、誰にでもあつた。自分は運行優先ではない」と考え、命を守るためにたたかう。安全より労組対策優先を会社に許さず、命を守るためにたたかう。

●パワハラ・不当労働行為について

パワハラ労災申請に対する支援に感謝。各々が自分自身に矢印を向け、実践を積み重ねてきた。自分の言葉で語ることで結核点が明確になる。労基署面談の結果を探る会社に対して毅然と対応。仲間が安心して帰れる職場をつくる▼異動希望の組合員が「〇〇(異動先)に行ったら考えたいは



発言した委員(敬称略・順不同)
昆野彰夫、田頭啓(盛岡) 島山翔(秋田) 湯ノ目勝、今野尊人(仙台) 村田祐一(水戸) 砂塚悠介、竹内靖(千葉) 対馬史幸(東京) 梶田優一(横浜) 戸崎祐介(八王子) 日笠将幸、新保哲之(大宮) 鈴木文美(新潟) 奥山直樹(長野) 嶋志田淳(営業) 齋藤誠(工務)

委員の承認に基づき発言した傍聴者(敬称略・順不同)
三瓶嘉則(バス関東東本部) 沼崎直人(バス東北本部) 苗木潤(ステーションサービス協議会)

ご来賓でお越しいただいた皆さま

JR総連	書記長	熊谷 茂	様
	広報部長	伊藤 俊也	様
JR東労組08会	会長	奥山 光昭	様
	事務局長	森 将美	様
	事務局次長	遠藤 政之	様

承認された事項

- スローガン
- 第42回定期大会以降の経過と当面の取り組みについて
- 労働協約・協定の締結について
- 2024年度暫定予算
- 委員会宣言

制裁審査委員会(再審査)答申

角田文典君、漆原徹君、新井賢一君 主文要旨
・各君の行為は規約第60条第1項(1)(3)に該当する
・規約第60条第5項により「組合員権停止3年」とする
⇒反対0、棄権0、賛成37により、答申採択を決定

●職場現実・経営姿勢について

復活は大変だったが、子供たちの笑顔に組合員も成長。一体感の大切さを実感した。たしなながら、社外には、駅での乗務員の確認と発表。隠れい責任転嫁だ。会社が報道をコントロールしていると感じる▼政策提言として「連白書」を会社に提出。職場では要員不足に加え、ジョブ異動による病欠や入院に追い込まれてしまった。大事な原因究明であり、会社にも自分達にも厳し、是々非々で臨む▼電気SIOの宿泊料不足は組合員の発信で判明。労働協約の重要性を訴える▼ライン管理化でダイヤ改正の労使議論を首都圏本部に集約して労使慣行を形骸化させる動きに抗していく▼施策で染みついた経営参画意識をJR東労組運動で労働者意識に戻していく▼未加入者の声をダイヤ改正交渉に反映し、折返し時間の拡大を実現。団体交渉で改善できるのは組合だけだ▼駅は窓口閉鎖や新たな販売機器の導入、企画業務によって疲弊。ジョブ異動で経験の浅い社員が増え、修正の多発と各離れを起している。お客さまを自ら手放しておいて一方で販促活動を行っており、どうやって稼げようのか。みどりの窓口での1時間待ちが当

●組織強化 拡大あらゆる妨害を許さないたたかい

新調、長野地本で交流を深め、信越地本(仮称)の結成に向けて奮闘する▼首都圏協議会や本部とも連携し、ボリリングレクを地本内の全組合員に声をかけ開催できた▼格差ペーパー根絶・スト方針は間違っていない。官僚組織を刷新する、異なる意見の排除を打破する。何でも反対でなく従属・癒着でない、のりを改めて掲げ、再結集を呼びかける▼未加入者の声を聞いただけで満足のではなく、「自らは何を実践するか」が重要。「自分がなぜJR東労組にいるのか」「一緒に会社を愛せよ」と訴えることで、自分にとってのJR東労組を明確にし、共にたたかう関係性へ高めよう▼若手主体のフットサル大会、キュー大会を初開催し、レクと春闘を結合して組織拡大につなげる▼社友会委員とJR東労組組合員が同じような考え方で加入しても意味がない。「JR東労組組合員は物事の捉え方が他人とは違う」と思ってもう

ハラスメントや不当労働行為をはじめとしたあらゆる妨害を許さず、24春闘勝利！過半数代表者選挙勝利！

1万名組織をめざし、組織強化・拡大を実現しよう！

総括答弁要旨 書記長 加藤 誠

●自ら切り込む姿勢へと飛躍しよう！

新年JR東労組運動宣言のもと、1万名組織をめざし、組織強化拡大のたたかいを通じて、大会以降33名の拡大を成し遂げてきた実践に敬意を表します。今後の組織拡大をするにあたって、もう一段飛躍するためには、自ら切り込んでいくことが組織的課題ではないでしょうか。

●2024JR総連春闘を連帯してたたかう！

JR総連は第46回定期中央委員会へ「連合・交通労働の30%以上の要求を踏まえ、連合要求を超える他産別と連帯、共闘」ならびに物価上昇を意識して、2024JR総連春闘を採択されました。とすると提起がされ採択されました。JR東労組もモチベーションを上げる最大の要因は賃金であることを主張し、離職防止の観点からも大幅な賃上げを求めたいきます。業績予測を上方修正されたのは職場の努力であり、「過去最高の働き度」に見合う賃上げが必要です。

●労使協創協議制の創設に対する危機感を持つ！

経団連は、1月16日に「労使自治を軸とした労働法制に関する提言」を発表しました。JR東日本では、社友会ハ「情報提供」「協創」「便宜供与」を否決し、会社と社友会が「労働協約」を締結することも法で認めるといって経営のパートナーであると言われている社友会が過半数代表者となれば、就業規則の不利益変更や38協定で定めた労働時間の上限の撤廃などに反対できるとは思えません。さらに経団連の提言通り、職権、例えば「モヒリティ部門」などの単位で過半数代表者が選ばれば、有利

本人と共にたたかう！
大宮運転区が発生した不当処分・不当転換のポイントは12月23日の「今日は帰

ことが必要だ▼地本全体を一つの分会と見立てて運動する中、職場集会以注目されたのは、「誰が組合員として残っているか」。系統を超えて様々な組合員に会いに行く▼組合員を不幸にする組織破壊には絶対反対だ▼組織拡大の根拠は、「この職場で加入できる」とも次職場で加入させること。最初は「世話になっている人から」と断られたが「本営に世話になっている人との関係は加入しても変わらない」「その人の為に仕事する訳じゃない」「俺たちは賃金を払う側にはなれない。家族を守る為に加入してほしい」と訴え加入へ。自分の決意と相手を変えざるを得ない▼過半数代表者選挙は、社友会が勝つたら不利益変更にも申しせない。組合員が過半数代表者になる必要を訴えたい▼「JR東労組はやることをやりながらモンを言っていて、信頼できる」として仲間が加入。相手を決めてほしい。自分分達の生き方を確定する「ここが大切な」▼駅で組織拡大を実現。分会全体で関わることでそれがJR東労組を感動できた。100の失敗があつて、100の成功がある。



●地方ローカル線と旅のプレゼンテーションについて

地方ローカル線については、いかに再構築協議会に参加するかが課題です。自治体に労働者が出席する必要性を認識してもらい、地域の議員と連携することで重要だ。

●仲間へ寄り添い、言うべきことを言い続けよう！

未だラッシュバックに苦む中、パワハラ労災申請に決起した宇都宮運転区分会の仲間たちは、労基署との面談に臨んでいます。引き続き、職場に宇都宮運転区分会の仲間たちを呼び、苦しさを我がものとしましょう。死まで追い込もうとする不当労働行為、パワハラ、暴力行為、懲罰的日勤教育、代わるハラスメントを断固許さず、労働者寄り添い、会社や権力のチェック機能を果たし、言わねばならないことを言い続けていきます。

そして、一切の組織破壊攻撃を許さず、今こそJR総連の旗の下に結果し、「抵抗とヒューマンズ」を基底に組織の強化・拡大と、2024JR総連春闘をほしめとする諸課題解決に向けて、すべての組合員と共に団結を打ち固め、職場からたたかいていくことを述べ、総括答弁とします。